



ものづくりインキュベーションセンター 入居者審査委員会 開催報告

2月22日(火)にインキュベーションセンター会議室において、入居者審査委員会を実施いたしました。入居延長4社、新規入居1社について、各企業様が事業内容を発表した後に審査員との質疑応答を実施しました。

厳正なる審査の結果、下記のとおりとなりました。

延長

支援室No.	企業名・代表者	研究開発内容	入居期間
1	(株)アスター 代表取締役 本郷 武延	高効率モーターコイルの研究開発	令和4年4月1日～令和5年3月31日
2	(株)アイアールメディカル工房 代表取締役 河邊 大輔	血管内治療用カテーテル製造事業	令和4年3月1日～令和5年2月28日
3	(株)エムケー技研 代表取締役 諸根 理仁	ソフトウェアの受託開発 監視カメラシステム・IoT機器・ロボットの研究開発と販売	令和4年4月1日～令和5年3月31日
4	(株)Social Area Networks 代表取締役 森田 高明	LPWAをベースとしたIoT機器の研究・設計・開発	令和4年3月1日～令和5年2月28日

新規

支援室No.	企業名・代表者	研究開発内容	入居期間
8	(株)ナガヨシ 代表取締役 金子 弘行	受精卵凍結保存容器の研究開発、新プラ素材(ライスレジン)を用いた製品開発	令和4年3月1日～令和5年2月28日



ものづくりインキュベーションセンター新規入居企業紹介

《令和4年2月1日入居》

リンクエフ

〒963-1165

福島県郡山市田村町徳定字中河原1番地1

郡山地域テクノポリスものづくりインキュベーションセンター10号室

代表 田村 慎太郎

TEL:050-3707-8410 E-mail:info@linkf.jp

URL:https://www.s-geo.net/ (浅層地中熱事業組合HP)

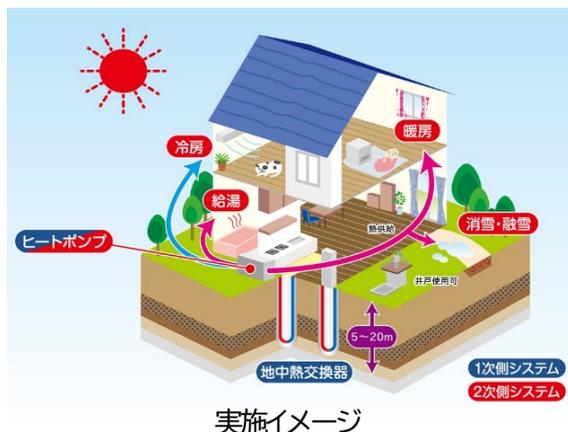
業種

地中熱利用システム事業

代表者からの一言

浅層地中熱利用事業組合員として、最適な地中熱利用システムの提案から設計まで行います。

また一次側低価格地中熱鋼管器の開発も行い、地中熱利用システムの普及に取り組みます。



アライアンス役員会 開催報告

郡山テクノポリス地域戦略的アライアンス形成会議の役員会を、2月8日(火)に開催しました。

開催においては、新型コロナウイルス感染症対策を行いつつ、令和3年度の事業報告の後、令和4年度の事業計画、令和4年度役員について協議しました。

令和4年度も新型コロナウイルス感染症対策を徹底しながら、会員企業の皆様に役立つ、また有意義な事業を企画・実施していきます。



インキュベーションセンター消防訓練 実施報告

日時:2月17日(木)10:00~10:50

参加者:入居者12名 事務局3名

入居企業が、夜間時の火災等の通報に対応できるように119番通報の仕方を学びました。

また、「職場で取り組む防火管理」と「火災燃焼実験動画」のDVDを視聴し、火災における「気づき」の重要性について学びました。



セーフコミュニティフェスタ 報告

みんなで作る安全・安心なまちを目指して、デジタル開催されている「セーフコミュニティフェスタこおりやま2022」に、昨年のハッカソン入賞3作品を公開しています。

1 ウェブサイトで作品を動画で紹介

2 巡回展示(チラシ等を掲載)

◆期間 1月31日(月)~2月6日(日)

場所 郡山市中央公民館 1階ホワイエ等

◆期間 2月7日(月)~2月14日(月)

場所 イトーヨーカドー郡山店 4階

◆期間 2月21日(月)~2月27日(日)

場所 日和田ショッピングモールフェスタ 2階



第3回ニューコメボードメンバー会議 開催



2月16日(水)に新型コロナウイルス感染症対策の観点からZoomを使用し、オンラインで「郡山地域ニューメディア・コミュニティ事業推

進協議会」令和3年度 第3回ボードメンバー会議を開催しました。

会議において、令和3年度の事業実施状況や令和4年度の事業計画案のほか小グループでのテーマに沿った意見交換を行いました。

【コラム】郡山テクノポリス地域戦略的アライアンス形成会議会員企業から

日本大学工学部土木学科を卒業後、郡山市内の測量設計会社に10年勤務し、平成元年、33歳のときに独立して(株)アーバン設計を設立しました。

社会資本である橋梁、トンネル、道路、コンクリート構造物等の調査、点検、診断、設計などを担う建設コンサルタントとして、福島県内をはじめ国内外のインフラ整備を生業としています。

会社経営のキーワードは「人材」で、人材育成費として「売上の1%」(5百万円)を充てています。社員の技術と能力の研鑽、従来の技術の伝承と新技術や高度な技術の習得、進化する検査機器の導入等に積極的に取り組むと共に、「資格取得報奨金支給制度」を策定して自己研鑽を奨励するなどの「働き方改革」を進めています。

技術革新が進み、業界の垣根や常識等が揺れ動く現代だからこそ、己の技術力に誇りを持ち、新しいニーズ、シーズを常に注視しながら、会社の利益につなげたいと思います。

自分を含め多くの創業者は、常に攻めの経営を行っています。

一緒に会社を盛り上げてきた仲間との一体感、苦勞を乗り越えてきた経験が自信につながるなど、常に新しい世界を見てみたいという姿勢があったせいかもしれません。

後継者は、どんな経営をするのか。果たして守りの経営をするのか。

守りの経営とは、会社を成熟させ、じっくりと腰を据えて安定的な社内体制を整えながら、ビジネスチャンス等を常に狙っている攻めの経営でもあると思います。



郡山テクノポリス地域戦略的アライアンス形成会議

高橋 昇一
(株式会社アーバン設計
代表取締役)

